

一般社団法人
日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
VOL.48 No.1
2024.1.1
(通巻 282号)
禁転載

CONPT

Conference for Newspaper
Production Technique-Japan

広報委員会編集
編集人 下平 泰生
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>



目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長	清水 英則	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長	田中 周	4
新聞技術賞を受賞して	朝日新聞社 製作本部生産管理部長	檀上 芳徳	5
新聞メディアの潮流 欧州報告(11)	在英ジャーナリスト	小林 恭子	7
第131回技術懇談会			10
美味あっちこっち	富士フィルムグラフィックソリューションズ	清水 教弘	10
わが職場あれこれ			
	北海道新聞社 制作局局次長兼システム本部長兼開発グループ担当部長	鹿野 厚	11
第3回年末全体会議			11
会員消息			11
会員名簿			12

- 表紙写真提供：静岡新聞社・写真部 「三保の松原から」
- 表紙製版：(株)デイリースポーツ
- 組版・印刷：(株)デイリースポーツ

年頭のご挨拶

前向きで大きな転換期に

日本新聞製作技術懇話会 会長

清水 英則



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大をようやく乗り越え、国内の経済社会活動が正常化に向かいました。物価上昇は原油価格の下落、円安の一服、政府の物価対策等によりピークアウトの兆しも見え始めましたが、高止まり傾向にあります。新聞界においても価格改定や夕刊廃止に踏み切る動きが進むなかで、日本新聞製作技術懇話会（CONPT）会員各社は価格転嫁を含め、難しい対応に追われたものと考えています。

*

CONPTにとっても、大きな決断を余儀なくされた年でした。2018年以来6年ぶりの開催に向け、日本新聞協会と協力して準備を進めていたJANPS2024（新聞製作技術展）の見送りが決定しました。経緯についてはこれまでも説明してまいりました。物価上昇、人件費高騰による展示会開催コストの上昇が影響した面もありますが、CONPT会員社の出展意向が低下傾向にあることが最大の要因であったことは、きちんと受け止めなくてははいけないと考えています。新聞界を取り巻く環境が大きく変化し、発行部数の減少、諸資材の高騰が新聞社の経営を圧迫し、その影響はCONPT会員社の事業にも波及しています。

第1回JANPSが1972年に開催され、その出

展企業を母体にCONPTが1975年に設立されました。以降は新聞製作技術の向上、改善を使命としてCONPTは活動してまいりました。その主たる事業であるJANPSの開催を見送らざるを得ない現状を認識し、今後の事業・活動について検討してまいります。

そのなかで、CONPT会員各社が引き続き新聞社に技術情報を発信・共有できる機会を提供していくことは至上命題として変わりはありません。新聞協会ともJANPSに代わる新たなイベントを企画、開催するというところで合意がとれています。

JANPS開催見送りが決定した直後から新聞協会技術委員会の情報技術部会、印刷部会とは代替イベントについて意見交換を行っています。新聞界およびCONPTの現状に即した最適なイベントを検討していくことが今年の主要課題と位置付けております。CONPT会員各社にとって従来の形態より効率が良く、そして新聞社が求める効果的な技術情報を発信できる場を企画してまいります。

*

CONPTは2025年に創立50周年を迎えます。その前年となる2024年は「前向きで大きな転換期」の構想・構築へ動くことが必要かと考えます。インターネットを含めたあらゆるメディアの中で、新聞は依然として「情報が最も正確で、信頼性が高く安心できるメディア」であると評価されています。CONPTは引き続き、その貴重なメディアを技術面で支えるという意識を、会員社の皆様としっかり共有して活動したいと考えております。

本年もよろしくお願ひいたします。

新聞製作を持続可能なものに

日本新聞協会技術委員会 委員長

田中 周

みなさま、明けましておめでとうございます。コロナから解放され、久しぶりに晴れやかな気持ちで新年を迎えることができたのではないのでしょうか。年末年始の忘年会や新年会も活気やにぎわいがあり、ようやくコロナ前の普通の生活に戻りました。今年は夏にパリで五輪・パラリンピックが開かれるほか、秋にはアメリカの大統領選挙が実施されます。大きなイベント、大きなニュースがあるときこそ、新聞が本領を発揮するときです。よい記事、よい紙面を読者へ届けられるよう、取り組んでいきます。

*

今年12月に開催を予定していたJANPS（新聞製作技術展）が取りやめになりました。私自身、初参加となる予定だったので残念です。紙の新聞にかつての勢いがないことから、メーカーもちょっと元気がないようです。出展を希望する社が前回より大幅に少なく、会場や日程の変更などを検討しても運営経費の赤字解消が見込めないといえます。やむを得ないことでしょう。

JANPSはこれまでメーカーが新聞社と交流し、情報発信をする重要な役割を果たしてきました。新聞社からすると特に若手技術陣がメーカーの担当者と顔見知りになり、最新の製作技術に触れることができる貴重な場でした。JANPSに代わるイベントについては

CONPT側が企画案を検討しているところですが、技術委員会の在京情報技術部会、印刷部会のメンバーも議論に加わってもらいます。今回だけでなく来年、再来年と継続して開催できるような新しい企画となるよう期待しています。

*

新聞社側にとって気がかりなのは、紙の新聞を発行するために不可欠な設備機器や資材を生産するメーカーの撤退、業務縮小の動きが広がり始めていることです。各社それぞれの経営判断であり、いたしかたないことだと思います。いずれも新聞製作業界に将来性がないと判断したためでしょう。新聞の部数急減に伴う設備投資の減少がこの傾向に拍車をかけているようです。

昨年はブランケットメーカーの撤退表明があったほか、キャリアや紙面検査装置の有力メーカーも、装置の更新や新規製造から撤退することを決めました。ブランケット、新聞キャリアは日本では事実上1社だけが製造・販売する状況となっています。すでにメーカー2社だけの製造になっている設備もほかに多くあります。新聞印刷工場の運営を持続可能なもの、サステナブルなものするためには、こうした動きへの備えが欠かせなくなっています。業界全体でメーカーを支え育てる体制をどのように構築していくかがこれからの大きな課題となります。

新聞は情報の信頼性や深掘りが求められる媒体です。私たちの仕事が生産に果たす役割は依然として大きなものがあります。今年もその重責に応えるべく、みなさまとともに励んでいきたいと思っています。

新聞技術賞を受賞して

ブランケット復活装置の開発

朝日新聞社

製作本部生産管理部長

檀上 芳徳

朝日プリンテックと共同で取り組んだ「ブランケット復活装置の開発」が2023年度新聞技術賞を受賞した。大変名誉ある賞をいただくことになり、開発に携わったメンバーを代表してお礼申し上げたい。

新聞輪転機は、アルミ製の刷版からゴム製のブランケットに転写し、紙に印刷する。このブランケットは使用するにつれ厚みが低下し、紙面品質の劣化を招くため新品に交換する。朝日新聞社の輪転機1セットのブランケット使用枚数は44枚(カラー機16枚×2台、モノクロ機4枚×3台)である。このブランケット交換費用に莫大な金額がかかる。「何とかこのブランケット交換費用を抑えられないだろうか」と単純明快な目的で、2015年にプロ

ジェクトを立ち上げた。

ブランケット復活装置の開発と検証には、約8年を費やした。2018年のJANPS（新聞製作技術展）にプロトタイプを出展した後も、朝日プリンテック印刷工場の全面協力のもと数々の実機テストおよび本番印刷検証を続け、2023年5月末に新聞社や印刷会社の皆さまに使っていただける装置として完成させることができた。(写真1)

1 ブランケット復活装置の概要

ブランケットはゴム層・圧縮層・基布層からなる多重積層構造(図1)である。ブランケットの事前調査から「厚み低下の原因は、基布層の厚み低下」と考え、使用済みブランケットの基布層の厚みを復活させ、輪転機で再び使えるようにする装置を開発した。

ブランケット復活の流れ(図2=次頁)は次の通りだ。①ブランケットを輪転機から傷つ



写真1 ブランケット復活装置

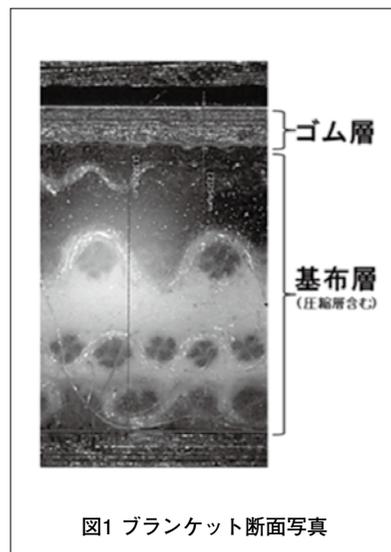


図1 ブランケット断面写真

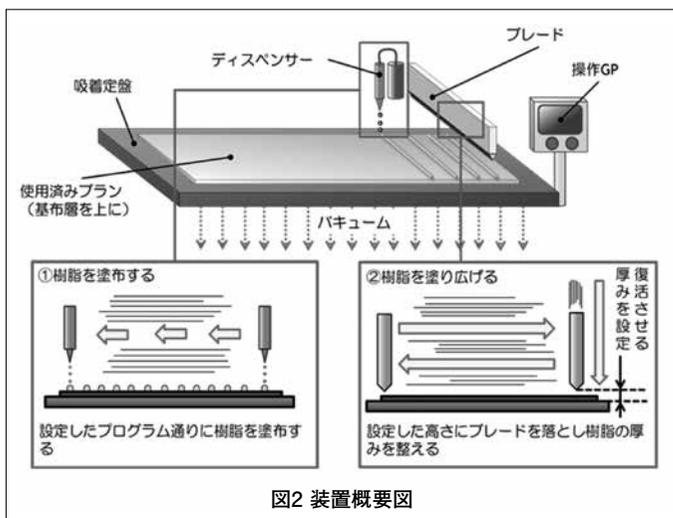


図2 装置概要図

けず取り外す②裏面(布面)を上にして、ブランケットを吸着定盤にセット③定盤には多数の穴があり、ブランケットを吸引し固定④スタート釦を押下、ディスペンサーがブランケットの上を往復しながら樹脂を棒状に塗布⑤ブレードが降下、ブランケット全体に樹脂を均一に広げる

スタート釦を押した後は、プログラム制御され最終工程まで自動運転となっている。1枚当たりの作業時間(準備作業等含む)は、2名で5分程度だ。また、タッチパネルで樹脂塗布量など各制御の設定を登録でき、種類、サイズ等の違いによって6種類のブランケットに対応できる。

樹脂の塗布とブレードの動作には、産業用ロボットを採用し、動作中はロボットが指示通り自動運転して作業を完了させることから、本装置の英語表記をABR (Awakening Blanket press Robot)と命名した。本装置は、西研グラフィックス社と共同開発し、西研グラフィックス社が製作した。

2 本番印刷検証

朝日プリンテック5工場で、本番印刷での検証を実施した。使用中、紙面品質に問題無

く、印刷テンションも安定していることを確認した。最適な厚み設定を見つけ出すまではさまざまな試行錯誤があったが、検証を繰り返す中でデータが蓄積され、現在はトラブル無く印刷できている。

また、朝日プリンテックでは、3~4カ月でブランケットを交換していたが、復活させたブランケットは1年近く使用できている。

3 導入効果

本装置は、新品購入費用の約10分の1でブランケットを復活させることができる。さらに、コスト削減効果だけでなく、数か月使用して廃棄していたブランケットを復活させ再使用できることから環境負荷低減にもつながる。また、復活させたブランケットは1年近く使用でき、ブランケット交換頻度が低減するためオペレーターの労働負荷軽減にもなる。

規格大量生産方式である新聞オフセット印刷の時代はまだ続く。印刷品質への要求は厳しくなる一方で、印刷コストを削減することが求められる。成熟期に入っている新聞印刷の新技術は、コスト削減と共に発展していくことが望ましいのではないだろうか。

また、完成品が紙として残る新聞印刷は環境に優しいと言われにくい。だからこそ、印刷の過程ではできる限りの省エネを考慮し、最小限の材料だけを使うべきだろう。この考えも重要な指針になるのではないかと思う。

『ブランケット復活装置』は、「コスト削減」「環境負荷低減」「労働負荷軽減」をかなえ新聞業界に貢献できる装置だと確信している。ご興味のある社があれば、西研グラフィックス社のWEBページ(<https://www.seiken-g.com>)からお問い合わせいただきたい。

紙はどう生き残るのか。AIの活用は？

在英ジャーナリスト

小林 恭子

世界新聞・ニュース発行者協会(WAN-IFRA)による最新ニュースから、デンマーク新聞界の最大手「ポリティケン」紙の生き残り策、ドイツ地方紙グループのAI利用、ノルウェーのメディアによる若者層の取り込み、英ガーディアン紙の戦略などを紹介してみたい。

【デンマーク】

——「ポリティケン」とは

1884年に創刊されたポリティケン(JP/Politikens (JPPOL) Husが発行し、そのジャーナリズムが国内外で高く評価されている高級紙だ。米「ニュースデザイン協会」(SND)による「世界最優秀の新聞デザイン賞」を2006年以降3回受賞している。紙版の制作に運営資金と人材を大量につぎ込む伝統的な新聞の経営スタイルをデジタル時代に対応するために変化させてきた。

例えば、電子版用に作った記事を紙版に落とし込む作業に時間がかかっていたが、400を超える原稿テンプレートを使って素早く対応できるようにした。電子版から紙版への記事の移動の際、原稿自体に手を加える作業が消えた。

——「音」がさらに重要に

ポリティケンデンマークで日刊のポッドキャスト配信を初めて開始した新聞で、現在も幅広いトピックを扱う数十の番組を配信中だ。「音」は「これからさらに重要になってい

◆各国の最新情報をみる

く」(ポリティケンのマネジング・エディター、アマリー・ケストラ氏)。ポッドキャスト部門の担当人員を今後はさらに増やす予定だ。読者は記事を文字で読むと同時に、音声コンテンツとして聞くこともできる。記事は記者あるいは俳優が読むが、Googleによる文字情報の音声化をより向上させた形でも聞ける。

【ドイツ】

——編集ツール「Klara」

「400年を経て、私たちは印刷機を止めました」。昨年10月、ドイツの家族経営企業DuMontグループ(本社ドイツ西部ケルン)の経営トップはこう述べた。この月から、発行する3紙の紙版制作を他企業に移管したためである。

DuMontが祈祷本や祝い事にまつわる紙類印刷のために工場を立ち上げたのは、1620年。現在までに新聞3紙、7つのラジオ局を傘下に持ち、1000人近い従業員が働いている。年間売り上げ収入は約1億9500万ユーロ(日本円で約300億円)で、新聞の合計部数(紙版と電子版)は年間2億4700万を数える。「今後はジャーナリズム・コンテンツを生み出すデジタル・テクノロジー企業になる」と最高経営責任者トーマス・シュルツ＝ホンバーグ氏は述べている。月間訪問者数4500万人をさらに増加させることを目標としている。

——アクセス数80%増

DuMont社では、ニュースの編集現場で「自然言語処理(Natural Language Processing = NLP)」やAIを駆使して文字情報を解析・分

類し、広告を生成している。ちなみに、NLPとは人間の言語(自然言語)を機械で処理し、内容を抽出することを指す。ウェブサイト上で政治など特定のカテゴリに並ぶ記事や掲載される広告の配置は完全自動化されている。NLPやAIを使うことで関連記事へのアクセス数が人間の手を使ってやっていた時よりも80%も増大した。個々の読者に合わせた記事や広告が画面に出るため、それぞれが固有の配置となる。

編集部員らは当初機械が記事を選ぶことに難色を示していたが、その方がアクセス率が高まり、読者がより深く記事を読んでいることが実験で判明し、前向きに受け止めるようになった。「編集者はコンテンツを作る人、機械はコンテンツをキュレートし、読者に届ける存在」という認識が定着していった。

DuMont社はAI編集ツール「Klara(クララ)」も採用している。ニュースサイトのひとつ「EXPRESS.de」に掲載される記事の6%をKlaraが執筆し、記事の総ヒット数の5・2%をこのツールが生み出す。Klaraは編集部からの指令で動き出すが、ケルン地域に関連するニュースの中で話題になっているトピックを一覧し、まだ記事が準備されていない場合は執筆を開始する。当初は、Klaraが書くひとつひとつの言葉を担当編集者が確認しながら記事を生成させていたが、今はKlaraが自ら記事を完成させ、編集者が正確性などを確認の上で掲載している。

【ノルウェー】

——若者層にアピールするには

ノルウェーのAmedia社は80の地方紙を発行する。課題のひとつとして抱えているのが、購読者の年齢が高い人に偏りがちであることだ。より若い層を読者として開拓するため、まずは「読者に聞く」ことから始めた。

発行する6紙から72人を「フォーカスグループ」(情報を収集するために選ばれた集団)と

して選び、さまざまな質問に対する回答の中で40歳未満からの回答を特に詳しく分析した。また、1000本の記事を対象に40歳未満のアクセス傾向を研究し、こうした分析・研究結果を全編集室と共有した。ウェブサイト上で各記事へのアクセス傾向がリアルタイムでわかるダッシュボードを作り、記者や編集者が見ることができるようにした。さらに多くの本数の記事を対象としてより詳細な分析を行い、男女差や年齢差によって閲読志向に変化があるかなどを調べた。調査によって出たアクセス傾向から仮説を立て、仮説が正しいかどうかをサイト上でテストした。

——導き出された3つの教訓

上記の段階を踏んだ上で、30-39歳の読者を惹きつけるような記事をどう作るかをまとめた小冊子を記者用に作成した。小冊子を使つての実践から1年後、若者層の多くが読んでくれる記事がどんなものかを説明する新たな小冊子を作成した。

上記から3つの教訓が導き出された。①若者層は他の年齢層同様にニュースに関心を持っている②読んでほしい層に直接アプローチする③一過性にしない。それぞれの新聞も独自の手法を試みるようになった。ある新聞は新たに若者向けポッドキャストを始め、別の新聞はソーシャルメディアに特化するサービスを開発した。

【英国】

——ガーディアン紙の戦略

英国で最も認知度が高い高級紙のひとつで、リベラル系全国紙となるガーディアンはウェブサイト上の記事の閲覧を無料にしている。一方、英国の新聞の発行部数は減少し続けており、年間平均で12%減だ。しかしガーディアンの紙版を読む人はそれほど変わっておらず、月間約310万人を数える。世界中からアクセスできるウェブサイトは、毎月約



◀英ガーディアン紙による印刷媒体「ガーディアン・ウィークリー」(WAN-IFRAのウェブサイトから)

<https://wan-ifra.org/2023/11/how-the-guardian-continues-to-drive-print-revenues-through-subscriptions/>

8100万人の固定ビジターを持つ。紙版からの収入は総収入の25%を占め、電子版からの収入は33%。購読料とは別に読者から寄付金を受け付けている。

——報道済み記事で週刊誌つくる

ガーディアンの主要戦略は①調査報道に時間と資金を投入する②気候温暖化を詳細に取り上げる③国際的なリーチ力を強化する、である。15年前に米国及びオーストラリア版を開始させ、現在は60%のオーディエンスを英国外から得ている。Googleやアップルなどのプラットフォームと提携し、収入を共有もしている。

ガーディアンにとって紙版は「最も収益率

が高い」媒体(出版部ディレクター、マイリン・シルベスター氏)で、依然として重要な位置を占める。すでに報道済みの記事を週刊誌としてまとめた「ガーディアン・ウィークリー」が好調で国内外で購読者数を増やしている。以前は新聞の別冊として出していたが、需要があると見て、体裁を刷新し単体の雑誌として国内外で発行している。月に4冊で購読料は23.50ユーロ(約3600円)。

英国では世界中の媒体からニュース記事を拾い、キュレートして出す週刊誌「ザ・ウィーク」が人気を集めており、慌ただしい現代人の生活の中で週に一度、紙のページをめくる行為がトレンドのひとつになっているようだ。

前回の本コラムで、英国のテレグラフ・メディア・グループ(TMG)の売却話を紹介した。売却の動きが出たのは、コラムが表記したようにTMGの経営が不振になったからではない。実際には、所有者パークレー家の負債が11億ポンド(約1873億円)に上ったことで取引銀行ロイズが経営権を取得し、売却に出された。不正確な表現となったことをお詫びしたい。

12月、パークレー家はロイズに対し負債額分を支払ったが、投資ファンドRedbird IMIによる支払いとなるため、政府が動き出した。Redbird IMIは米未公開株投資会社Redbirdとアラブ首長国連邦の投資会社International

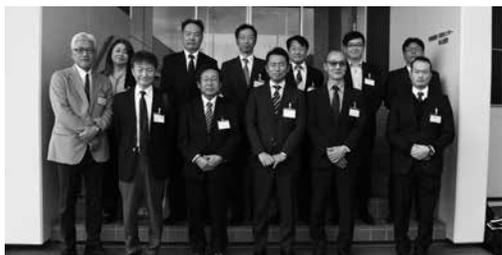
Media Investmentsのジョイント・ベンチャーで、最終的な責任者はアラブ首長国連邦のシェイク・マンスール副首相だ。

フレイザー文化相はニュースの正確性、言論の自由の維持、公的価値の提供などを報道機関に対し義務付ける企業法を基に、「競争・市場オーソリティー」とオフコムに対し、Redbird IMIによるTMGの取得が上記の条件を満たすかどうかの調査を依頼している。結果は1月末までに報告予定だ。

誌上 CONPT-TOUR

徳島新聞印刷センターを見学

—第131回技術懇談会



日本新聞製作技術懇話会は、第131回技術懇談会として11月16日に徳島新聞印刷センター（徳島県板野郡北島町）を見学した。会員社9社11名と事務局2名が参加した。

徳島新聞印刷の岡本光雄社長は、「印刷センターは稼働してから4年近くになるが、その間に断紙が発生したのはわずか4回」と生産設備の安定稼働を強調した。

印刷センターは南海トラフ大地震などに備え、海に面した立地の旧センターから北西に約13kmの内陸に建設された。建屋全体を免震構造とし、震度6強、マグニチュード9クラスの地震に耐えられる設計となっている。

輪転機は三菱重工機械システム製4×1輪転機「DIAMONDSPIRIT」2セットの構成で、並列に向かい合わせた配列となっている。

輪転機から発送設備、さらには新聞束を結束するPPバンドまで、系列ごとに赤と青に色分けされている。

巻き取り紙を搬送するAGVは椿本チエイン製を採用しており、鳴門の捕虜収容所でベートーヴェンの「交響曲第九番」が日本で初めて演奏されたことに因んで、「第九」を奏でながら走行する。

充実した見学者対応は注目に値する。見学者は「徳島新聞特命課」の訓練生となり、見学を進める。VRゴーグルを装着すると、圧倒的な臨場感で輪転機が稼働している様子が映し出される。また、工場の設備だけでなく、新聞の紙面ができるまでのプロセスについても詳しい説明を受けた。

今回の見学に際し徳島新聞印刷センターの皆様にはご多忙中にも関わらず、隅々までご案内いただき、貴重なお話を伺うことができました。心より御礼申し上げます。

洋食屋 モンブラン吾妻橋店（東京・本所吾妻橋）

今回は浅草と東京スカイツリーの間にある浅草通り沿い「本所吾妻橋駅」から徒歩1分、洋食屋「モンブラン吾妻橋店」です。浅草店は連日、観光客でにぎわっていますが、吾妻橋店は地元客がメインの穴場です。

名物は国の名前がついた「鉄板焼きハンバーグランチ」。分厚く焼き上げられ、ソースが「フランス風」「オランダ風」「イタリア風」「ロシア風」「メキシコ風」「和風」の6種から選べます。私のお気に入り、熱々ゴーダチーズのソースをたっぷりとかけた「オランダ風」。濃厚なソースとお肉の旨味が絶妙。ご飯、味噌汁、小鉢がついてお値段1050円はお得です。

駅近辺は、塩パンを20数年前に初めて作



ソースは6種

った「塩パン屋 パン・メゾン」、安くて美味しい「もつ焼き」のお店もあって充実。春には桜が満開、夏には隅田川の花火大会（隅田公園）と、季節の情緒も味わえます。

FFGS
清水教弘

あれこれ わが職場

ホワイトイルミネーションの頃、思い出すこと

北海道新聞社 制作局局長 兼システム本部長 兼開発グループ担当部長 鹿野 厚

会社からの帰りにいつも札幌市中心部の大通公園を通る。先日いつものように帰宅すると、さっぽろホワイトイルミネーションが開催されていた。美しいイルミネーションが幻想的な冬期間限定のイベントで、季節の到来を感じる。毎年見慣れているとはいえ、初日だけは新作オブジェを探して10分ほど歩いてしまう。カップルやファミリー、国内外の観光客が写真を撮りあっている中、おじさんが写り込まないように一人で歩くのは心苦しくもあり、恥ずかしさもあるが、通勤ルートなんだから仕方が無いと自分に言い聞かせながら歩いている。

ホワイトイルミネーションと言えば2年前に朝日新聞社と富士通と3社の懇親会の後にイルミネーションを背景に記念写真を撮ったことがある。当社の若い社員達が打ち合わせをしている中、「おしのび」で会に参加していたのだが、富士通さんの女性SEに「おいしかったし、きれいでした！」と無邪気にSlackで写真を投稿され、当社の社員に「楽しそうで何よりでしたね！」といわれ、恥ずかしい思いをしたことがある。この季節になるとそれを思い出し、逆に毎年自分でイルミネーションの写真をSlackに投稿することにしている。あれから1年たちましたーのご挨拶だ。3社は編集システムの開発プロジェクトでのつながりなのだが、早いものでそれも3年半になった。毎年の写真も3枚になった。運用開始まで秒読み段階であり、懇親会をする余裕が今はないが、安定稼働後に今度は堂々と打ち上げにいきたいと思っている。

来年10月には弊社は新本社に移転する。帰り道でホワイトイルミネーションを見ることもなくなる。これからはどんな写真を投稿しようか。

第3回年末全体会議を開催

一般社団法人 日本新聞製作技術懇話会

一般社団法人日本新聞製作技術懇話会は第3回年末全体会議を12月11日に日本プレスセンタービル9階の日本記者クラブ会見場で開催した。来賓として、日本新聞協会から技術委員会の田中周委員長、編集制作部の勝田洋人部長、桜井哲也技術・通信担当主管の3氏を迎え、会員社26社37名(オンライン参加7名含む)が出席した。

清水英則会長は開会挨拶で、「JANPSが開催できないインパクトは非常に大きいですが、JANPSに替わる新たな情報発信の最適な手法を考えていきたい」と語った。

来賓挨拶で田中周委員長は「新しいイベントが末永く続くようよう皆さんと共に企画していきたい」と述べた。勝田洋人部長は「新聞社が情報発信し、国民の知る権利に応えるた

めには、メーカーの皆様の優れた技術力が欠かせない」と挨拶した。

2023年4月から9月までの事業中間報告として、清水英則会長による全体報告に続き、評議委員会、クラブ、企画、広報の3委員会と技術対話部会、並びに予算執行状況の報告があった。議案は理事1名の選任と事業計画の変更の2件で、原案通り承認された。

その後、懇親を深めるため立食形式の懇親会を開催し、並田正太副会長の中締めでお開きとなった。

会員消息

■担当者変更

* 東洋インキ(株)(1月1日付)

「新」室川 晴希氏

(東日本営業本部 東京営業部 担当部長)

「旧」立川 雅人氏

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (34社) 2024年1月現在

社 名	〒番号	所 在 地
(株)イワタ	101-0032	東京都千代田区岩本町3-2-9
(株)インテック	135-0061	東京都江東区豊洲2-2-1 豊洲ベイサイドクロスタワー
(株)金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1王子木材緑化ビル1階
コダック(同)	140-0002	東京都品川区東品川4-10-13KDX東品川ビル
サカタインクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
(株)システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17
清水製作(株)	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越5-37-16 水工ビル
椿本興業(株)	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階
(株)椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル
(株)東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイビル6階
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル5階
東洋インキ(株)	173-0003	東京都板橋区加賀1-22-1
東和電気工業(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6階
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2
日本電気(株)	211-8686	神奈川県川崎市中原区下沼部1753
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8
日本通信機(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131 NEC我孫子事業場内
日本ポールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階
パナソニックコネク(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地
(株)フジオー産業	115-0043	東京都北区神谷2-6-8
富士通(株)	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan(株)	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フィルム西麻布ビル
富士薬品工業(株)	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10
HOUSEI(株)	162-0821	東京都新宿区津久戸町1-8 神楽坂AKビル9階
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1
三菱製紙(株)	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア
明和ゴム工業(株)	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20